

アユの資源状況と増殖対策等について

1. 人工河川実施結果

(1) 安曇川人工河川

①親アユ放流量(計画 養成アユ18トン:通常8トン+追加10トン)

- ・前期分:8.4トン(8月27日~30日に放流)
- ・後期分:9.6トン(9月8日~17日に放流、うち1.8トンは姉川人工河川に振替放流)

②流下仔アユ数

- ・期間中合計 14.8億尾

(2) 姉川人工河川

①親アユ放流量(計画 天然アユ4トン)

- ・姉川に遡上する天然親魚を4トン採捕して放流する計画であったが、遡上が少なく、0.16トンで終了。
- ・安曇川人工河川に放流予定の養成親魚のうち、1.8トンを姉川に振替放流。

②流下仔アユ数

- ・期間中合計 4.8億尾。

(3) まとめ

- ・安曇川、姉川の合計流下仔アユ数は19.6億尾。
- ・計画量44億尾(= 親魚1トンあたり2億尾 × 22トン)の44.5%。

表1 時期別の人工河川流下仔アユ数 単位:千尾

	安曇川	姉川	計
9月ふ化(早生まれ)	11.8	0.5	12.3
10月ふ化(遅生まれ)	3.0	4.3	7.3
計	14.8	4.8	19.6

- ・昨年は同じ親魚量で合計流下仔アユ数は38.5億尾。

○流下数が少なかった理由

- ・人工河川は表層水(温水)と深層水(冷水:水深20m)を取水し、混合して河川水温を調節。
- ・9月4日の台風21号によって安曇川人工河川の深層水の取水口が湖底の砂泥で埋まり、取水が大きく減少し、河川水温が上昇。(18℃→23℃)
- ・高水温による親アユの産卵不良や疾病が発生。
- ・また、台風による増水で濁水が発生するも取水量低下のため緩和できず、死卵が増加。
- ・産卵量およびふ化率が低下したことにより、流下尾数が少なくなった。

2. 天然河川の産卵状況(主要 11 河川)

- ・産卵調査は最終の第 6 次調査が終了(11 月 5～7 日)し、今期の産卵数は累計で 12.8 億粒を確認(昨年は 2.7 億粒、平年値 100.5 億粒の 12.7%)。
- ・台風 21 号による増水などで産卵調査ができない区間があった。

表2 産卵調査結果

単位:億粒

調査次	8月下	9月中	9月下	10月中	10月下	11月上	計
	1次	2次	3次	4次	5次	6次	
H30	0.1	8.4	3.8	0.2	0.1	0.2	12.8
H29	0.0	0.1	2.4	0.2	増水欠測	0.0	2.7
平年値	0.1	27.0	35.4	19.3	0.3	0.0	100.5

3. 湖中仔稚アユ生息状況(ヒウオ生息状況調査)

- ・河川でふ化し、琵琶湖へ流下した仔アユの生息状況を把握する調査。
- ・琵琶湖沿岸の 9 水域で水深 8 m 層を曳網し(1 km×2 回)仔稚アユを採集。
- ・毎年 10 月～12 月の各月 1 回、新月の夜間(2 日間)に実施。
- ・第 1 次調査を 10 月 3、4 日に、第 2 次調査を 11 月 7、8 日に実施。
- ・1 曳網平均採集数は第 1 次が 290 尾で昨年の 5.8 倍、平年の 2.54 倍
- ・第 2 次は 87 尾で、平年の 88 尾とほぼ同じ。

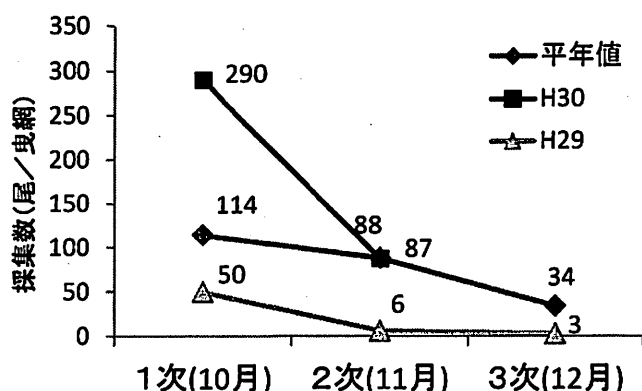


図1 ヒウオ生息状況調査結果の比較

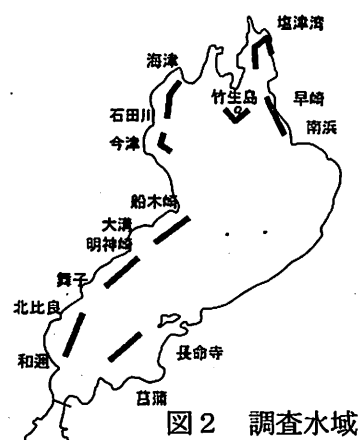


図2 調査水域

4. まとめ

- ・今期の産卵調査結果は 12.8 億粒で平年比 12.7%と少なかった。
- ・人工河川からの流下仔アユ数は、安曇川人工河川の不具合により 計画量の 44.5%に留まった。
- ・一方、ヒウオ生息状況調査では第 1 次および第 2 次調査結果ともに、琵琶湖の中で育っているアユの数は昨年を大きく上回り、平年並みから平年以上の生息状況。
- ・これらの結果から、産卵調査結果は過小評価と判断。
- ・12 月からのエリ漁の対象となる 9 月生まれのアユ資源は確保されていると推測。

5. 今後の調査予定

- ・第 3 次ヒウオ生息状況調査を 12 月上旬に予定。